

令和6年度 第2回三島市図書館協議会 会議録 [概要]

1 開催日時

令和7年2月21日（金）午後1時30分から午後2時45分まで

2 開催場所

生涯学習センター5階 ミーティングルーム

3 出席者

(1) 委員（順不同）

段 千恵子、白井 由美子、西山 敦子、竹山 美奈子、小川 高明、梶 一純、
西島 真美 計7名

(2) 事務局

小塚教育長、鈴木教育推進部長、鈴木教育推進部主任、渡邊館長、中島館長補佐、
武藤主幹、木本主任司書、渡邊主任司書、越沼主任司書、菊地主任

4 会議の公開・非公開の別

公開

5 傍聴人の人数

2人

6 会議の内容

(1) 開会

(2) 教育長挨拶

(3) 会長挨拶

(4) 議事

① 令和6年度図書館利用状況について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

（ 委 員 ）	様々な行事をやっていて、いいなと思った。今後も継続してほしい。
（ 委 員 ）	行事が増えていて、のぼり旗もよく見かけるようになったので、ますます進行していくといい。中郷小・中郷中との企画展示などを見かけるが、どの地域の子どもたちが中郷分館に来るのか。
（ 事 務 局 ）	近くの子どもが、親御さんと一緒に来館されることが多い。一般利用としては、難易度の高い調べ物や、資料を多く借りたいという場合は、本館を利用される。仕事帰りに、予約の受け取りのために来館するには、中郷のほうが立ち寄りやすいという声もある。
（ 委 員 ）	「絵本のまち三島」について、学校としても1年の間いろいろとやってきたが、市としての取り組みと、それに対する子どもたちの反応なども教えていただき、ありがたい。イベントに参加した子どもたちが、

	今度は学校や保育園などで絵本を見てみようだとか、学校とのよい連携もできつつあるのかなというふうに考えている。
(委 員)	年3回の「図書館講座」は、参加人数に上限があるのか。
(事 務 局)	会場となる講義室の定員は150名である。
(委 員)	第1回の参加人数は161名となっているが。
(事 務 局)	オンライン配信の参加者が30名程度いたと記憶している。
(委 員)	会場がいっぱいでお断りするという事は、今のところはないということか。
(事 務 局)	お見込みのとおり。
(委 員)	2月16日の「図書館利用者講座」の参加人数は。
(事 務 局)	9人だった。
(委 員)	「絵本のまち三島」について初めて聞いたときは、何をやるのだろうと思ったが、見ていると面白くて、こういう切り口もあるのだなと思っている。大河ドラマの影響もあり、第2回図書館講座の『「中将」たちの平安時代』に参加したが、大変参考になった。
(委 員)	図書館講座のオンライン配信は、今も実施しているのか。
(事 務 局)	オンライン配信を実施するかどうかは、その回ごとに判断している。
(委 員)	コロナ禍限定で実施していたわけではないという理解でよいか。
(事 務 局)	お見込みのとおり。
(委 員)	「絵本のまち三島」について目にすることが多くなったが、図書館の日々の利用の仕方に影響はあったか。
(事 務 局)	入口からすぐの場所に、企画展示「三島市ゆかりの絵本作家」を設置しているが、児童コーナーが閉まった後も絵本を手にとることができ、立ち止まってくださる方は多いと感じている。
(委 員)	「絵本のまち三島」の今後の展望を伺いたい。
(事 務 局)	年齢や性別の区別なく、地道に働きかけていきたい。最大の目標は、市民のウェルビーイングの向上である。
(委 員)	ウェルビーイングという言葉は、一般的には浸透していないと思う。
(委 員)	言葉として、もう少し浸透するまでは、毎回、注釈を入れたほうが良いのでは。
(事 務 局)	意味までは浸透していないというのは事実なので、工夫したい。
(委 員)	ウェルビーイングというのは、生活の質の向上というような意味合いだと思うので、例えば『心も体もいい感じ』のように、子どもでも分かるようなキャッチコピーを考えて、「絵本のまち三島」と絡めたポスターを作ると良い。

② 令和7年度図書館事業計画（案）について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

（ 委 員 ）	電子情報推進事業の「国立国会図書館公共図書館向けデジタル化資料配信サービス」は、いつから実施しているものか。
（ 事 務 局 ）	平成28年度から実施している。当初は公共図書館に限定されており、個人向けはコロナ禍に始まった。
（ 委 員 ）	本館の駐車場は狭く、混雑していることもある。図書館が開館しているときも、ブックポストを開けてほしい。
（ 事 務 局 ）	ブックポストに返却した後、すぐに来館される場合があることも想定する必要がある。ブックポストに返却しただけでは、データ上の返却処理ができないので、館内で本を借りようとすると、貸出点数の上限を超えてしまうということが有り得る。

③ その他

a 三島市民生涯学習センター運営委員会委員の推薦について

生涯学習課より依頼のあった、三島市民生涯学習センター運営委員会委員の推薦について、事務局に一任することを決定した。

b 利用者アンケートの結果報告について

事務局より説明の後、次のような質疑応答・意見があった。

（ 委 員 ）	このアンケートは、紙で実施しているのか。
（ 事 務 局 ）	オンラインによる実施も検討したが、回答者の年齢層を考えて見送った。
（ 委 員 ）	デジタル化したほうが、職員の負担も減るのでは。10代・20代の回答が少ないのも、もしかしたら、そのような部分に原因があるのかもしれない。3日間で実施するというルールがあるのか。
（ 事 務 局 ）	ルールがあるわけではないので、そのあたりも併せて研究していく。

c その他

（ 委 員 ）	来年も、イベント関連で学校が協力できることがあれば頑張りたい。
（ 委 員 ）	イベントが増えてきたので、年間行事一覧があるといいと思う。
（ 委 員 ）	利用者アンケートのデジタル化により、職員の負担軽減を進められたらいい。高齢者だからオンラインで回答できない、ということはないと思う。図書館講座のオンライン配信はとても便利なので、こちらも進めていってほしい。
（ 委 員 ）	漫画は、読書の入口としての効果が見込めると考えている。図書館と、

	学校図書館の考え方について伺いたい。
(事務局)	漫画の導入については、近隣図書館の情報等を収集し、検討を重ねた結果、この秋から学習漫画の導入を始めた。一般的な漫画の収集にあたっては、学習漫画以上に課題が多く、さらに慎重な検討が必要。
(委員)	生徒からアンケートを取るなかで、学校ごとに違いが生じることは考えられる。個人的には、読書の入口ということで、柔軟に考えるということもあるのかなと思う。
(委員)	「りんごの棚」という取り組みがあるが、ユニバーサルデザインやバリアフリーについての考えはあるか。
(事務局)	児童のユニバーサルコーナーに、LLブックやDAISY絵本を配架している。
(委員)	利用状況はどうか。
(事務局)	手元に資料がないので、調査する。障がいをお持ちでないお子さんも、手に取って楽しんでいることがある。
(委員)	ユニバーサルコーナーとしてまとめてしまうと、興味のある大人の方が出向くというイメージがある。「りんごの棚」の設置については、以前にもお願いしたように思うが、全国的な取り組みなので、理解しやすく、認知度として広がっていきやすいと思う。
(委員)	誰でも読書を楽しめるようになるといいと思うので、ぜひ検討を。また、先日、保育園の先生から、本の修理の仕方がわからないので、図書館で本の修理コーナーをやってほしいという声を聞いた。こちらでも検討をお願いしたい。

(5) 閉会